

第 5 回武蔵野 33 観音霊場 14・15 番寺巡礼

担当 A グループ・記録 大館 徹

開催日時 令和 7 年 4 月 17 日(木)9:00~13:00 晴 24℃

参加人員 22 名

行 程 小手指駅南口 9:00 集合→9:20 発バスで大日堂下車→徒歩⑭妙善院→徒歩
⑮松林寺→小野家住宅見学→和ヶ原→狭山ヶ丘駅(全行程徒歩約 12500 歩)

第 14 番寺 光輪山 妙善院

札所本尊 白衣観音(行基菩薩作と伝えられるご本尊)本堂内。

宗派は所沢地域で多い曹洞宗。狭山 33 観音霊場の結願寺にもなっている。

大日堂バス停から所沢青梅線を横切り茶畑の中を北へ進む先に山門、本堂の屋根が見えてくる。喜多濃住職様にお庭ででもお話を聞きたいと前もってお願いしてありましたがいきなり仏間に案内され、席にはお茶と菓子が用意されて恐縮しました。今日は難しい話でなく問答式にしましょうと言われ主に法事の作法などについてなどの話が主体となりました。住職様よりハンドバン(写真 1)と言う楽器の演奏があり皆さんも叩かしてもらいました。境内の墓所の中には徳川家旗本となった沢氏墓石の脇に古い五輪塔(写真 2)が一基たたずんでいる。嘉暦 4 年(1329)3 月の銘があり埼玉県指定文化財である。



上(写真 1)喜多濃住職様のハンドバン演奏

右(写真 2)右脇埼玉県指定文化財五輪塔



第 15 番寺 長青山 松林寺

札所本尊 千手観音(本堂内に安置されている)

三ヶ島中学校脇から所沢商高付近の平地が広がる田畑の中の道路を小 1 時間歩くと林の松林寺に着く。寺号のとおり松の美しいお寺で枝ぶりのいい松が多い。山門からの一直線のアプローチが素晴らしく松の間から仁王像がどっしりと構えている(写真 3)

玄奘三蔵法師像(写真 4)、玄奘三蔵(西暦 602 年～664 年)は小説「西遊記」で知られています。私たち日本人が最も多く読誦している「般若心経」は実は玄奘三蔵が訳したお経なのです。長い間のインド旅行をやり遂げ五日に一卷のわりでお経を翻訳致しました。経典を背負い一步一步大地を踏みしめて歩く玄奘三蔵のお姿には正しい仏法(ご先祖様の心)を伝えようという不屈な意思が伝わってまいります。(松林寺境内の説明書きより)



上(写真 3)参道

右(写真 4)玄奘三蔵法師像、後方は常吉薬師六角堂
上野寛永寺成就院から明治 18 年(1885)に当寺に移された



上(写真 5)松林寺本堂前での集合写真

後方本堂前にはインド国宝に指定されているアショカ王の石柱を模して一対建てられている

その他境内には閻魔堂、鐘楼などの諸堂と釈迦如来像や一葉観音像などがある。

小野家住宅(国指定重要文化財)公開日毎週日曜日の午前 9 時～午後 4 時まで
本日は外回りのみの見学計画であったが喜多さんの計らいにより内部まで見学でき、その上小野様の説明迄聞けることができましたことに感謝しています。

松林寺から狭い道を歩くと茅葺屋根の木造家屋が見えてきました。

旧林村は山口領に属し 17 世紀後半から急速に進んだ新田開発によって、現在見るような畑の中に農家が点在する村が形成されてきました。小野家は残された位牌などにより今から 300 年前の 17 世紀末にはこの地に住みついたと思われます。本住宅は茅葺の入母屋造りで、柱や梁は、野物のクリ、マツを用いています。低い軒先や荒い仕上げなどの特徴から建築年代は 18 世紀初め頃と推定されます。1975 年(昭和 50 年)本住宅は武蔵野の開拓農家の面影を伝える古民家として、国の重要文化財に指定され、1978 年(昭和 53 年)解体修理が施工された。(当住宅の説明書きより)



小野家の茅葺屋根と茶畑



小野さんの説明を聞く、土間台所部分



板の間部分のいろり端、野物材の柱と梁組造り



2 階野物材の梁組造りと竹張の床、妻側排煙開口部